

熊本県電気工事業工業組合「第66期通常総代会」開く 技術革新と人材確保で業界発展を目指す



令和8年度の事業計画などを決めた「第66期通常総代会」

熊本県電気工事業工業組合（汐田康博理事長）は29日、熊本市のワン・ステーションホテル熊本で「第66期通常総代会」が開催された。総代会には委任状を含めて50社が出席し、令和7年度事業報告及び収支決算を審議・承認されたほか、令和8年度事業計画では、人材の育成と確保や地域社会への貢献などを柱とする新年度事業計画を承認した。総代会後は来賓を招いて懇親会が開かれ参加者同士の交流が図られた。

総代会の挨拶で、汐田理事長（㈱汐田電設）は「昨年度は、全国大会をはじめ技能競技大会など各種事業を無事に終えることができました。特に全国大会では、当県から41名もの皆様にご参加いただき、開催地を除けば全国でも上位に入る参加人数となりました。改めて皆様のご協力に感謝申し上げます。また、人材育成の取り組みとして、木村電機様のご協力により、県内工業高校の新入生へ電動ドライバーを贈呈する事業を昨年に続き、今年も実施しております。業界の将来を担う若者たちへの支援として、大変意義のある取り組みだと感じております。私たち電気工事業界を取り巻く環境は大きく変化しており、AIなどの技術進展や再生可能エネルギーの普及への対応が求められる一方で、人材不足や資材価格の高騰など、多くの課題も抱えています。こうした時代だからこそ、組合員同士が



挨拶の汐田理事長

支え合い、力を合わせていくことが重要で、今後は組織のあり方や将来像についても皆様としっかり議論を重ねながら、より良い組合づくりを進めてまいりたい」と挨拶した。

議事進行は、瀧邊正継氏（総合設備優巧株）を議長に選出し、令和7年度事業報告及び収支決算を審議・承認されたあと、令和8年度事業計画及び収支予算を決めた。新年度の事業計画では、①人材の育成と確保、②評議会大会及び三地区合同会議の開催、③商工組合としての事業の取り組み、④九州電力送配電株・QSSとの連携強化、⑤福利厚生に関する全日電工連の商品内容の周知と徹底、⑥地域社会への貢献を推進する。



来賓挨拶の井上課長補佐

総代会後の懇親会では、来賓として熊本県危機管理防災局消防保安課の井上勇人課長補佐、熊本市都市建設局公共建築部首席審議員兼設備課長の堀正直課長、県議会議員の竹崎和虎議員や関係団体などが出席。来賓挨拶で井上勇人課長補佐は「近年、電気工事業界を取り巻く環境は大きく変化しており、省エネルギー化や再生可能エネルギーの普及、IoTやAIなどの技術革新により、電気設備の高度化が進んでおります。一方で、建設資材価格の高騰や技術者不足といった課題も続いており、人材育成や生産性向上への取り組みが重要となってきます。また、昨年

の豪雨災害では停電などの被害も発生しましたが、本県と組合との災害協定に基づく迅速な対応は、県民生活を支えるうえで大変重要なものとなっております。今後も県民の安全・安心な暮らしと地域社会の発展のため、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます」と述べた。続いて、九州電力送配電株熊本支社の高山正俊部長は「現在、熊本エリアには約40万本の電柱があり、高圧線や低圧線などを通じて、工場やご家庭へ安定的に電気をお届けしております。その中で最も大きな課題が、地震や豪雨、台風などの自然災害への対応です。今年は熊本地震から10年の節目を迎えますが、その後も人吉豪雨や昨年8月の豪雨災害など、大きな災害が発生してまいりました。特に地震や水害は予測が難しく、迅速な復旧体制の確保が重要な課題となっております。平常時はもちろん、災害発生時には一日も早い停電復旧と電力供給の確保が求められます。そのためにも、皆様方のご協力が不可欠です。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます」と述べた。



来賓挨拶の高山部長

このあと、(一社)九州電気保安協会熊本支部の多種子田正市支部長の発声で乾杯し、親睦を深めた。